

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番 号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	----------	-----	-----	------------

令和2年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤とし、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる日本人の育成を目指す。

(2) 具体目標(具体的な児童生徒像など)

- ・心身ともに健康で、勤労を尊ぶ生徒
- ・基礎となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- ・礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- ・主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- ・文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

生徒の信条 「強く 賢く 美しく」

2 学校経営の理念

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、全ての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針

[城山地域学校園教育ビジョン] ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

- (1) 新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、健康的な生活習慣の形成による豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。 生徒
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに組織的対応による職員の負担軽減と業務の効率化を図る。 教職員
- (3) 義務教育の連続性を重視して小中間の連携強化を図り、地域人材・地域教材を有効に活用して地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。 小中一貫教育・地域学校園

4 教育課程編成の方針

関係法令、県学校教育振興ビジョン、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・

能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。また、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等との連携を図った、地域に根ざした豊かな体験活動を教育課程に位置づける。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（１）学校運営

- 一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実
- ・地域の教育力、小中の連携を生かした教育活動の推進
- ・全職員の学校経営参画意欲の向上
- ・学年、学級経営目標の実現
- ・業務の効率化等による働き方改革の推進

（２）学習指導

- 「主体的対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実
- ・読解力向上に向けた読書活動の充実
- ・学習習慣の定着を目指す指導の充実
- 主権者教育の推進

（３）児童生徒指導

- ・自己有用感を味わえる教育活動の推進
- ・規範意識の醸成、耐性を育む指導の充実
- 認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止
- ・問題行動発生時の迅速な組織的対応
- ・特別の教科道德の充実

（４）健康（体力・保健・食・安全）

- ・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開
- ・健康（感染症対策）と食の安全確保のための衛生管理、施設点検の充実
- ・栄養教諭を核とした望ましい食習慣の育成
- 家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

6 学習指導，児童生徒指導，健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

様式２～４参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（１）育てたい資質・能力

- ・地域の特徴を理解し，課題を作る力
- ・情報を収集，分析，編集し，発表する力
- ・地域貢献を計画し，実行する力

（２）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に○）

地域のよさを知る「ふるさと学習」の推進

- ・総合的な学習の時間の「ふるさと学習」における、学年別学習テーマの設定

第1学年「城山地区の環境」

第2学年「城山地区の食と農」

第3学年「城山地区の施設と文化財」

- ・大谷石加工体験など地域の外部講師を活用した教育活動の実施
- ・学習の成果を共有する場としての「ふるさと学習発表会」の実施
- ・「ふるさと学習」の学校ホームページ等での紹介

地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度を養う地域交流，地域貢献活動の充実

- ・地域の清掃活動や地域の人々との交流活動を行う「城山あったか活動」の実施
- ・「城山あったか活動」の学校ホームページ等での紹介
- ・「城山地区体育祭」「城山地区文化祭」等，地域行事におけるボランティア活動の奨励
- ・学校支援ボランティアの活用と交流活動
- ・学校の教育活動への理解を深めてもらうための土曜授業や学校公開の実施

小中一貫教育の推進

- ・小学6年生の中学校訪問の充実
- ・学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学校6年生の招待
- ・地域学校園あいさつ運動の推進
- ・地域学校園内小中学校合同での冒険活動教室の充実

魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力による各種教育活動の企画・推進

- ・城山再発見
- ・地域交流コーナー整備
- ・「城山あったか活動」川柳募集

8 本市の重点施策・事業との関連

（1）地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

基本的考え

「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「（1）育てたい資質・能力」を育成するために，魅力ある学校づくり地域協議会や地域内の各団体・人材を有効かつ積極的に活用し，連携・協力を深める。

主な取組

「7 特色ある学校づくり等に関する取組」の「（2）具体的取組」参照

（2）小中一貫教育・地域学校園

基本的考え

地域学校園として育成したい小中共通の児童・生徒像を明確にして取り組んでいくことが大切であることから、部会ごとに小中共通の重点目標を共有して連携・協力していく。

主な取組

(1)学力向上部会

- ・地域学校園としての「学習のきまり」や「家庭学習の手引き」の作成・配付と活用
- ・「城山ライブラリーニュース」の発行
- ・地域学校園内授業公開の実施

(2)学校生活適応支援部会

- ・地域学校園あいさつ運動週間の設定 5月, 10月(中学生の小学校訪問)
- ・小中児童情報の引き継ぎ 3月(対象:小学6年)
- ・児童生徒情報の共有のための小中学校の連携強化(「生活のきまり」の共有)

(3)健康・体力・食育推進部会

- ・保健指導に関する小中連携の充実
- ・地域学校園内の食材を使った統一料理の実施
- ・「お弁当の日」の統一実施

(4)交流連携推進部会

- ・中学校学習発表会(合唱コンクール)への地域学校園内小学6年生の招待
- ・「城山地域学校園小中一貫教育だより」の発行
- ・地域学校園内小中学校合同の冒険活動教室,及び小学6年生の中学校訪問の充実

(3)不登校対策

基本的考え

不登校生徒を生まないために、「魅力ある学校づくり」を推進しながら「悩みの早期発見・早期対応及び精神的に強くたくましい生徒の育成」を図るとともに、不登校生徒に対する支援の充実のために「一人一人の実態に応じた効果的な支援」を推進する。

主な取組

- ・「学校生活に関するアンケート」(年3回)や教育相談の実施と充実
- ・Q・U検査結果の分析と指導・支援への有効活用
- ・教育相談体制の充実(担任,学年主任,生徒指導主事,養護教諭,SCM,SC,MS等の連携強化)
- ・不登校傾向の生徒の居場所となるサポートルームの効果的な運用

(様式 2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立 城山中 学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和 2 年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習指導上の主な実態

学習内容定着度調査 (3 年) 及びとちぎっ子学習状況調査 (2 年) から

- ・国語科... 2 ・ 3 年生ともに市の平均をやや下回っている。特に 2 年生では「話すこと・聞くこと」が 7 ポイント、3 年生では「読むこと」が 5 ポイント、市の平均より下回っている。
- ・社会科... 2 ・ 3 年生ともに市の平均を下回っている。2 年生では「歴史分野」が、3 年生では「公民分野」がそれぞれ 10 ポイント程度下回っている。
- ・数学科... 2 年生は市の平均とあまり変わりはないが、関数については 4 ポイント下回っている。3 年生ではすべての分野で市の平均を下回ったが、時に「数と式」においては 8 ポイント市の平均を下回った。
- ・理科... 2 ・ 3 年生ともにすべての観点で市の平均を下回っている。2 年生では特に「生命」については 10 ポイント、3 年生では「エネルギー」で 4 ポイント、市の平均を下回っている。
- ・英語科... 2 ・ 3 年生ともにすべての領域・観点で市の平均を下回っているが、特に 2 年生では「読むこと」が、3 年生では「書くこと」では 9 ~ 12 ポイントほど下回っている。

学習と生活についてのアンケートなどから (カッコ内は市の平均値)

- ・「学校の授業がどの程度分かりますか」という問いに対する本校の肯定的回答の割合は、1 年生が 85.8 ポイント (86.7) 2 年生が 89.1 ポイント (82.1) であった。また「自分から進んで取り組んでいる」という項目で肯定的な回答をした生徒の割合は、1 年生が 73.6 ポイント (75.2) 2 年生が 73.9 ポイント (71.8) でともに市の平均とほぼ変わりなかった。
- ・家庭学習では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合が 1 年生では 50.9 ポイント (51.4) 2 年生では 62.0 ポイント (46.8) であった。また、「平日の学習時間」では、1 時間未満の生徒が 2 年生では 23.9 ポイント (25.1) 、1 年生では 23.6 ポイント (21.5) と家庭学習がやや不足している。

授業等への取組状況から

- ・学年や教科によって若干の偏りはあるものの、チャイム着席や授業開始・終了時のあいさつなど、時間を守り落ち着いた態度で授業に臨んでいる生徒が多い。美術科や保健体育科など実習や体を使う学習を好み、活発に取り組む様子が見られる。「話し合いに自分から進んで参加している」という項目に対する生徒の肯定的割合は、2 年生では 82.6 ポイント (82.1) 、1 年生では 77.4 ポイント (80.4) とやや苦手としており、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」でも、1 年生がやや市の平均を下回っている。授業中に進んで話し合っ

たり、自分の考えについて根拠を述べながら分かりやすく説明しようとする生徒は増えてきたがまだまだ多いとは言えない。今後も思考力・判断力・表現力の育成に力を入れて取り組んでいきたい。

(2) 今年度の重点目標

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実
- ・読解力向上に向けた読書活動の充実
- ・学習習慣の定着を目指す指導
- ・主権者教育の推進

(3) 今年度の取組(文頭に「学校教育スタンダード」に関する取組は□、「令和2年度指導の重点」に関する取組は○、授業における取組のうち重点は○)

学力の定着と向上

- 「全国学力・学習状況調査」や「学習内容定着度調査」・「学習と生活についてのアンケート」等の結果から、基礎・基本の定着状況や学習への意識を把握して、課題を明らかにした上で指導の工夫や改善について教科部会等で協議し、共通理解を行う。
令和2年度1学期の共通実践事項。(忘れ物をしない、書く活動の重視、目標・振り返り)
 - 「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させ、基礎・基本の定着を図るとともに、自ら学ぶ意欲を高める。
- ・読書活動を充実させるため、「朝の10分間読書」の時間を有効に活用する。
家庭学習について各教科で予習・復習の仕方、テスト勉強の仕方などを指導したり、適切な課題を与えて授業やテスト等で活用させることで、効果的な学習の仕方を身に付けていけるようにする。
- ・一人一人に応じた指導を行うため、個々の生徒の特質を教職員で共通理解し、TTや習熟度別学習を行うとともに、かがやきルームを支援的に活用する。
- 学習指導を充実させるため、小学校と学習状況についての情報交換や相互授業参観を継続して行う。
- 3分前チャイムによる着席、授業開始・終了時のあいさつ、授業中の姿勢など授業でのルールやマナーを徹底し、学業指導を通して学びに向かう集団を育成する。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 「校内公開授業週間」を企画し、教職員が思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法について、研修や情報交換を行うことにより、指導力の向上を図る。
各教科で話し合い活動等を積極的に取り入れ、言語活動の質的向上を目指す。話し合い活動を活発化させることにより、他者と協力しながら協働的に課題を解決できるようにする。
- 思考力や表現力を高めるための手立てとして課題設定や発問の仕方を工夫し、ホワイトボードの活用やワークシートを工夫して自分の考えや意見を説明できるようにする。
- ・漢字や計算力、英単語等の基礎学力を確実に定着させるため、単元末テストや小テストを計画的に継続して行う。
- 課題解決的な学習展開を工夫して主体的に学ぼうとする意欲をもたせ、授業の終末では本時の学びを振り返らせる。
未来を生き抜く力の育成
- 地域学校園で指導している「学習のきまり」との関連をもたせながら、発言の仕方や他の生徒の発表の聞き方・ノートを取り方などについて、授業ガイダンス等において指導を行う。

○一人一人の良さを認めてほめることで、意欲的に課題に取り組む姿勢を育てる。

- 総合的な学習の時間（ふるさと学習・あったか活動）をとおして郷土への愛情を育む学習の推進を図る。
- 授業でタブレット型パソコン等の ICT を活用して学習の充実を図り、情報を読み取ったり活用する能力を育成する。
- ・総合的な学習の時間と学級活動等においてキャリア教育・主権者教育に関わる学習の充実を図り、「宮・未来キャリア・パスポート」等の活用によって主体的に学ぶ力と社会を生き抜く力を育む。

(様式 3)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和 2 年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ 陰口やかからいは多少あるものの、早期対応により解消に至っている。
- ・ 不登校生徒が増加している。該当生徒への対応は、担任が電話連絡したり、定期的に家庭訪問したりしている。また、S C ・ M S の活用や教室に入れない生徒の一時的な居場所であるサポートルーム開設、S S W やまちかどの学校、教育センターなど、学校内外の担当者、関係機関がチームとなり対応を検討しながら支援にあたっている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ いじめ防止についての取組では、いじめ防止に関する道徳や特別活動、集会やアンケートの実施を継続して行っており、生徒の肯定的回答が 9 5 . 0 % と高い割合を示していた。
- ・ 「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」生徒の肯定的回答の割合が 9 4 . 7 % と高い数値を示しており、学習に前向きに取り組んでいる。

(3) 学校生活の状況から

- ・ あいさつ運動などの継続的な取組を行っているが、挨拶を積極的に行おうとする意識が低下している。
- ・ 校外での過ごし方（言葉遣い、交通マナー、スマホの扱い）等の意識の低下が見受けられる。

2 今年度の重点目標

規範意識の醸成、自己有用感を高める指導の充実、認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に□，「令和 2 年度指導の重点」に関する取組は文頭に○，不登校対策に関する取組は文頭に○）

(1) 時と場に応じた挨拶やマナーの習得を目指す取組の工夫

- ・ あいさつやマナー向上のため、生徒会主催の活動とともに、学級単位のあいさつ運動や小学校と連携（年 2 回）した、あいさつ運動を継続して行う。
- ・ 生徒指導主事を中心に月目標を設定し、学校全体の課題としてとらえ、全職員であいさつや言葉遣い等が適切にできるよう指導する。週 1 回行われる部会において目標と実施の確認を徹底し、全員で取り組む雰囲気を作る。

- ・基本的な生活習慣が確実に身に付くように、定期的に身だしなみチェックを行うとともに、学年集会等で学年主任や生徒指導担当教員が全体に語りかける機会を設ける。

(2) □生命や人権を尊重する態度の育成といじめを許さない集団づくり

- ・いじめの未然防止のため、「学校生活に関するアンケート」を継続実施するとともに、スマホ・携帯電話等によるトラブル防止のための出前講座やマナーアップ講座などを実施し、社会のルールやマナーについて考えさせる。
- ・学校行事の振り返り川柳の作成・掲示や、授業で制作した作品を掲示したものを鑑賞して称賛するなど、望ましい環境づくりを継続して行う。
- ・生徒主体による「いじめゼロ集会」の実施や「イエローリボン」の配付を通して、思いやりのある心やいじめを許さない態度を育成する。

(3) □自己有用感を高める指導の工夫

- ・生徒の自己有用感や自信を育てるため、学校行事において一人一人が活躍できる場面や役割を設定する。さらに、その取組を支援し、達成できた事実に対して承認・称賛する。
- ・「人のために役に立った・貢献している」という喜びや達成感・成就感を味わえるように、生徒の小さな成功体験を学級の時間や学年集会、生徒会活動、表彰などを通して計画的に称賛する機会を設ける。

(4) □問題行動等のある生徒や集団に適応できない生徒への適切な対応・支援

- 居がいのある学級づくりのため、Q-U検査や年3回の定期教育相談を実施・充実させる。
- 生徒の悩みや不安、問題行動等の早期発見・早期対応のため、各種関係諸機関やSC、MS等と定期的な情報交換を行うなど、連携を強化していく。また、サポートルームを活用し、学校での柔軟な対応を行う。
- 全職員の共通理解のもとで一貫した校内支援ができるように、定期的な連絡会議をもち、生徒指導の記録を残し、支援の方針等を明示する。
- 職員研修において、不登校についての理解や対策の立て方、事例検討会等を実施する。

(5) 交通ルールや情報モラルの指導

- ・交通ルールを守ることやマナーについて指導を徹底し、事故防止に努める。登校指導・下校指導の回数を増やしたり、危険個所についての説明会を行ったりする。
- ・スマホ使用の危険性や問題点について、全校集会や各担任の話の中に取り入れる機会を増やす、ノースマホデーやスマホ出前講座などを効果的に活用する。

(様式 4)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	15	学校名	宇都宮市立 城山中 学校
-----	-----------------	------	----	-----	--------------

令和 2 年度 健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・健康診断の結果から、肥満傾向の生徒が 8.3%、痩せ傾向の生徒が 2.7%いることがわかった。体格は男女とも全国平均と大きくは変わらないが、特に 2 年生に肥満・痩せ傾向の生徒が多い。
- ・未処置歯のある生徒は年々減少しているものの、未処置歯数が多く、早急に治療が必要な生徒の医療機関受診がなかなか進まない状況である。
- ・裸眼視力 1.0 未満の生徒は全国平均に比べ低く、約半数の 51.5%の生徒が 1.0 未満である。
- ・元気っ子健康体力チェックの結果の分析から、昨年度に引き続き課題とされた投げる力については、全学年において県、市の値との大きな差はないという結果が出ており、課題達成ができた。次年度は、宇都宮市において、投げる力を課題としていることから、引き続き工夫した取組を行っていく。全身持久力では全ての学年・性別でおよそ 5 ポイント下回っている。昨年度よりも、向上しているが引き続き課題としていく。

(2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・宇都宮市学校マネジメントアンケートから、「運動に意欲的である」という肯定的な回答が全体で 80%を超えており、引き続き運動好きな子供を様々な運動場面や運動機会を与えていくことで、運動能力の更なる向上が期待できる。
- ・保健について、同じく質問項目「生徒は、歯磨き・手洗い・ハンカチ所持など、健康に気を配って生活している」の肯定的回答は、教職員 83.3%、生徒 89.4%であった。ともに設定した目標値は達成しているが、今後の更なる向上が期待できる。
- ・食事について、同じく質問項目「生徒は好き嫌いなく給食は食べている」の肯定的回答は、教職員 66.7%、生徒 79.2%である。設定した目標値は、未だ達成できていないが、昨年度よりも数値は上がっており、生徒の食べようとする姿勢も見られ始めている。
- ・宇都宮市学校マネジメントアンケートから、「健康や安全に気を付けて生活している」の肯定的回答は、教職員で 77.8%、生徒は 91.5%であり、教職員の評価が低い。生徒の自転車の安全な乗り方について課題があるため、今後工夫した指導が求められる。

(3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

- ・新体力テストの結果を丁寧に教職員に周知したことにより、生徒の体力の実態を全教職員が把握することができた。そのことから、体育科だけでなく多くの教職員が生徒へ体力のアドバイスなどを指導できる体制が整いつつある。
- ・手洗いチェック週間の取り組みなどにより、うつのみや学校マネジメント全体アンケートの質問項目「生徒は、歯磨き・手洗い・ハンカチ所持など、健康に気を配って生活している」の肯定的回答が、教職員・生徒ともに 80%を超える結果になっている。手洗いチェッカーとブラックライトによる手洗いチェックの取組は、生徒たちへの手洗いの意識付けとして高い効果があった。

- ・栄養教諭によるチームティーチング授業を保健体育科の保健分野で行った。専門家の授業により、生徒たちの興味関心を高めるだけでなく、生活に必要な知識を身に付けさせることができた。マネジメント全体アンケートでは、質問項目「好き嫌いなく食べている」の肯定的回答が教職員、生徒ともに昨年度よりも結果が向上した。
- ・令和元年度は、安全について、宇都宮ブリッツェンによる交通安全教室を実施したり、年度初めと年度末で交通安全意識アンケートを生徒にとったりし、その結果を分析して、指導に生かすなどしたことにより、年度末の交通安全意識アンケートでは、「交通安全に気を付けようとしている」の生徒の肯定的回答が年度初めに比べて数値が上がった。また、学校生活上の安全な生活において、係より月に1度の定期安全点検を徹底して実施し、随時危険箇所や故障箇所を管理職に報告するなどして対応した。そのことにより、学校環境の整備などが、昨年度と比べ充実したという教職員の声があがるようになった。

2 今年度の重点目標

運動、健康、食、安全についての学習を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成、健康の保持増進に努めようとする資質や能力の育成、食を通じた健康の保持増進のための実践力の育成、安全に対する意識の向上など、自己管理能力を育成する。令和2年度は、特に危険予測、回避能力の育成について、指導の充実を図る。

3 今年度の取組

(「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に)

(1) 体力の向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開

- 元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえ、劣っている種目について授業で補強運動実施
- 地域学校園で9年間を見通した系統的な体育指導(課題設定の統一化と小中が連携して分析)

(2) 健康を管理する能力の向上

- 保健だよりの発行(毎月)
- 生徒の実態や発達段階に応じた保健指導を、担任・養護教諭・外部講師などが連携して実施【喫煙防止教室(1年)・薬物等の防止教室(全学年)・性教育講座(2・3年)】
- 生徒会環境整備委員会による校内美化コンクールの実施(12月)
- 生徒会保健体育委員会活動を通しての健康情報発信・歯みがき調べの実施・手洗いチェック
- 学校保健委員会・学校給食委員会の開催(12月)
- 歯科保健活動の推進(給食後の歯磨き指導の継続及びむし歯治療の推進)
- 地域学校園小中学校間の情報交換の密化と発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続
- 地域学校園内での保健だよりの交換と校内掲示

(3) 栄養教諭を核とした望ましい食習慣の育成

- 給食指導の徹底(通年)
- 食育だよりの発行(毎月)
- 給食一口メモ放送(毎日), 給食クイズ(年2回), リクエスト給食(年2回), バイキング給食(3年生の2月)の実施
- 栄養教諭とのチームティーチングによる、食に関する指導の実施

- 家庭と協力した「お弁当の日」の実施（年２回）
- 生徒会給食委員会での残量調べの実施（１２月）
- 学校保健委員会・学校給食委員会の開催（１２月）
- 地域学校園小中学校間の情報交換の密化と発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続
- 地域学校園内での食育だよりの交換と校内掲示

（４）危険予測・回避能力の育成

- 消防署，警察署と連携した火災・地震・竜巻・不審者侵入を想定した避難訓練実施（４、１１月）
- 災害時や不審者に関する情報の家庭や地域への提供
- 消防署と連携を図った職員の心肺蘇生法研修の実施（４月）
- 宇都宮中央警察署によるスケアードストレイ方式による交通安全教室の実施（全学年４月）
- 家庭・地域と連携を図った交通安全指導の充実（交通ルールやマナーの遵守）

(様式 5)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和 2 年度 校内研修（研究）計画及び管理主事・指導主事等の訪問要請計画

1 研究主題

「主体的・対話的な学び」の実現と、学習目標の明確化と定着のための振り返り、授業形態の工夫による学力の向上
--

2 研修（研究）年間計画

月	内 容 及 び 方 法	□ ○ 印	要請する教科等 及び時期
4	・学校課題、教科、領域の研究主題と研究内容、評価計画 及び研修計画の確認 ・ふるさと学習・城山あったか活動について（内容・進め 方・まとめや発表の方法の検討） ・新学習指導要領に関する研修会(4/2) ・生徒のアレルギー・エピペンに関する研修会（4/3） ・心肺蘇生法研修会（4/15） ・特別支援教育に関する研修会(4/22)		
5	・生徒指導校内研修会（配慮生徒）(5/20)		
6	・地域学校園小→中乗り入れ授業の実施		
9	・ふるさと学習の実施(9/2,3) ・研究授業（校内授業研究会） ・生徒指導、教育相談校内研修（教育相談）(9/23)	○	学級活動 9 月中旬
10	・城山あったか活動の実施（10/3 土曜授業）		
11	・校内公開授業月間 ・教育課程研究指定校事業公開授業(11/16) ・道徳公開授業（11/21 全市一斉土曜授業） ・生徒指導、教育相談校内研修（教育相談）(11/25)		保健体育 11/16
12	・地域学校園中→小乗り入れ授業の実施		
1	・次年度の学校課題の検討		
2	・次年度の教科と領域の年間指導計画と評価計画の検討		
3	・次年度の教科、領域経営計画及び研修計画の作成		

管理主事、指導主事等の要請時期については、月日を指定せず「○月中旬」等と記入する。
各種教育の研究として指導主事等を要請する場合は、内容及び方法の欄や教科等の名称の下に、
各種教育の名称等を記入する。

□ ○ 欄には次のとおり記号を記入する。

- ：「授業力向上プロジェクト」としての研究に関する要請訪問
- ：学校単独での研究に関する要請訪問
- ：国県市の指定による研究に関する要請訪問
- ：作成要領 2 の(3)イ(ア) b に該当する要請訪問